

未来を拓き、変革に挑む水道

2026年度▶2035年度

# ふくしま水道事業ビジョン

## 2026



令和7年10月  
福島市上下水道局



## ごあいさつ



### 未来を拓き、変革に挑む水道 ～信頼される水道であり続けるために～

本市の水道事業は、全国で50番目の近代水道として大正14年に創設され、令和7年4月に通水開始から100周年の節目を迎えました。

創設以来、市勢の伸展に伴う水需要の伸びに応じ、8次にわたる拡張事業に取り組み、摺上川ダムによる豊富で良質な水源を確保してきました。渡利浄水場時代の加圧方式から、標高という位置エネルギーを利用した自然流下方式へと大転換することで、大幅な電気使用量削減とCO<sub>2</sub>の排出抑制を実現させました。また、水道の自然圧を利用した小水力発電を導入するなど、本市が掲げる「チャレンジ2050ゼロカーボンふくしま市」の実現に取り組んでおります。

水道事業を取り巻く環境は、人口減少に伴う水需要の減少、施設の更新・耐震化などの課題が山積しています。これまでの維持管理の時代から、本格的な施設再編の時代へ移行しており、中・長期的視点に立った再編計画の立案が急務と考えております。

本ビジョンでは、これまでの基本方針である「安全」「強靭」「持続」「環境」を「安全」「強靭」「進化」の三つの視点と改め、変革に取り組む考えです。

広域連携やICTを活用した業務効率化、上下水道施設の一体的な老朽対策や防災対策を着実に進め、市民の宝である「いのちの水」のバトンを健全な形で次の世代に確実に繋いでまいります。

令和7年10月

福島市水道事業管理者 清野 一浩

# 目 次

<b>第1章 基本理念と視点</b>	<b>1</b>
1. 基本理念	1
2. 視点	2
3. 行動指針	3
<b>第2章 計画の策定方針</b>	<b>4</b>
1. 策定の目的	4
2. 計画の位置づけ	5
3. 計画期間	6
<b>第3章 現状と課題</b>	<b>7</b>
1. 水道事業の経過	7
2. 水道事業の現状	15
3. 水道事業の課題	23
<b>第4章 施策展開</b>	<b>26</b>
1. 施策の体系	26
2. 各視点の取組	28
(視点1) 安全 「いつでも、安心して、水質基準に適合した安全な水が飲めること」	28～33
(視点2) 強靭 「災害による被害を最小限にとどめ、かつ迅速に復旧できること」	34～40
(視点3) 進化 「社会経済情勢を的確に捉え、生産性向上や収入確保等により常に効率的な事業運営とすること」	41～59
<b>第5章 実現に向けて</b>	<b>60</b>
<b>資料編</b>	<b>61</b>
1. SDGs	61
2. ふくしま水道事業ビジョン2026策定経過	64
3. 歴史年表	66